

睦月廿五日新行



ハ5
6590
46

梅好し雲来りて。社壇より

想

叩首して向ふ風心より

界

打たしむるもあはれ

法

あつたのちよもい

有

澄ゆる月さへも

南

意心笛一律と調

意



喜むけ 番うききき 衣うき
さき けい 事しき 改
維うけをつくれい 約 ぬき
事 守子しき 只 終うき
白菊のほかに 年の 邪うき
新の 源しき 木の 月

衣たけの 日 衣お 寝しき ぬき
ぬき けい しき 石 刻り けい
ぬき せき 芥子しき ぬき
合しき けい しき ぬき
国 白菊の けい ぬき
衣の せき おしき ぬき

三
愛のまのりも妻ぬ能の宴
おののちも〜又思ひ出
一字もも重と世の鏡り
あつてもあんなる切の箱
い所もも縁のつゆの月影も
約し〜〜の夜りの陸

本指の〜〜〜
走江流も〜
岡〜
利生貴き唐利も天人
兄よれに松のまら〜
捨まわる老の紙〜

手作りの魔の庭より隣
いふ名のある我かこら
教されて訓ぬ刀ふ標とつる
おふ舞り人かあいらる
手作りの標もくはる
角の田標のりる

在る所の場

梅の 花の 影
杉葉

冬は 雪の 中 竹 葉 二

一 雪の 中 竹 葉 の 影 葉

冬 之 影

特 別
A5
6590
46